

「『世』において『天』を見上げて」 (要旨)

聖書箇所：マタイ 5:13-16

【1】あなたがたは地の塩、世の光である

どの家庭にも置いてある塩。私たちは取り立てて注目しません。屋内の光も同様です。それらがなくなった時に初めて生活必需品だったことに気が付きます。

主イエスは、キリストに従うクリスチャンを「地の塩…世の光」(5:13-14)にたとえました。「いつの日か地の塩、世の光になれるように努力しましょう！」というスローガンを掲げた訳ではありませんでした。「あなたがたは地の塩です」(13)、「あなたがたは世の光です」(14)とはっきりと言われたのです。

【2】塩と光

人は周囲の称賛によって表舞台に押し出されます。反対に「迫害されている者」(10)は、攻撃的にならないよう隠れます。

今日の箇所は、「義のために迫害されている者」(10)と繋がりががあります。主イエスは、世から迫害される「あなたがた」(11-12)に「喜びなさい」と命じ、そして「あなたがたは塩」であり「あなたがたは世の光」であると、あなたがたには役割があると言われました。

まず、ここで言う「塩」は食品の味付け、腐敗を防ぐ等の役割が期待されています。当時の食塩は精製塩ではなかったため、湿気などの作用で塩化ナトリウムがろ過されて、塩気をなくしてしまうことがありました。そうすると外見上は塩に見えても、使い物にならずに捨てられました。塩は他のもの(塩以外)に、塩味をつけることが期待されます。「あなたがたは地の塩です」とは、クリスチャンはこの「地¹」の良き味付けとなり、腐敗を防ぐ役割があるのです。「地」において塩気を発揮することが期待されています。

次に「光」です。暗い夜、人には向かうべき方向を指し示す灯台が必要です。人は「光」なくして正しい道を歩むことはできません。そうした「光」は真理のシンボルです。「光」は「世²

が暗い時にこそ大いに輝きます。小さな灯火であってもテーブルの上に置けば辺りを照らします。無駄に輝く場合もあります。テーブルの下などがそうです。主イエスは、誰にも見えない場所でひっそりと輝くのではなく、「光を人々の前で輝かせなさい」(13)と言われたのです！

後に、主イエスは弟子たちに宣教命令を与えました。「…あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」(マタイ 28:19)

この宣教命令により、主の弟子たちは、「地の果て」にまで福音を宣べ伝えに行きました(使徒 1:8)。

自分の考えに同意してくれる仲間であれば、「迫害」されることはありません。私たちはいつの間にか信仰を自分の心の安定と平穏な日々を支える手段と位置付けてはいないでしょうか。イエスは、「あなたがたは地の塩」、「あなたがたは世の光」と、自分以外の人々の前で塩気を保ち、そして光を輝かせるようにと語られていたのです。

【3】『世』において『天』を見上げて

クリスチャンが「世」において「天」を見上げて生きる時、世はクリスチャンを異質な存在とみなします。クリスチャンの生き方に対して悪口を浴びせることもあります。同時に「世」はよく観察しています。言葉と行いが一貫したものであるのかを。

「あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」(16)

○三浦綾子著『塩狩峠』

▷「世」に同調するのではなく、「天」を見上げ、「塩」、「光」としての役割を全うできますように。



¹ 「地」は「地球の住民、人々、人類」(BDAG)

² 「世」は「人類一般、世界」(BDAG)